

「保健医療科学」
第61巻 第6号 予告

特集：新たながん対策の推進—第二期のがん対策基本計画を踏まえて— (仮題)

第一部	わが国のがん対策の新しい展開—総論—	
	第2期のがん対策基本計画について (仮題).....	岡田就将
	がん対策推進協議会の議論と今後に向けて (仮題).....	門田守人
	第1期の総括と第2期に向けた課題 (仮題).....	埴岡健一
第二部	第2期のがん対策推進における諸施策—各論—	
	「がんプロフェッション養成プログラム」の進捗と第2期への展望 (仮題).....	樋野興夫
	がん診療連携拠点病院整備の進捗と第2期への展望 (仮題).....	加藤雅志
	放射線治療の進捗と第2期への展望 (仮題).....	石倉聡
	がん検診の進捗と第2期への展望 (仮題).....	斎藤博
	がん登録の進捗と第2期への展望 (仮題).....	祖父江友孝
第三部	都道府県のがん対策の新しい展開	
	都道府県がん対策推進計画の現状と第2期への期待 (仮題).....	今井博久
	都道府県のがん対策の先進事例分析と第2期への期待 (仮題).....	福田吉治
	都道府県のがん教育の普及啓発の取り組みと第2期への期待 (仮題).....	助友裕子

編 集 後 記

どのような目的をもった活動であれ、その活動を次のステップに活かしていくためには、ある段階でその効果を合理的に評価しなければならない。とくにそれらの活動が国や地方自治体によって行われるものである場合、その評価にあたっては科学的情報（データ）の蓄積とその客観的分析が必要不可欠である。

2000年に始められた第3次国民健康づくり運動（いわゆる健康日本21）については、今年度のうちにある程度の評価がなされ、その評価に基づいて次の第4次国民健康づくり運動に向かおうとしているところである。本号の特集では、地域において今後実施する健康モニタリングの評価・見直しの際に重要な科学的根拠となる健康・栄養調査について、その意義や課題を様々な観点から整理している。

健康にかかわる科学的情報の多くは、何らかの調査研究を通じて蓄積されていくものであるが、これらの情報が有効に健康施策や事業に活かされ、最終的には国民の健康増進に役立つことが重要である。しかし、その過程には多様な現実的問題が存在しており、それらの問題を1つずつクリアしていかなければ、調査研究の結果が人々の健康に結びつくことは難しい。本特集で述べられている内容は、今後の国民の健康増進に関わる様々な現実的課題を解決していくうえで多くの示唆を与えるだけでなく、健康事業の評価を次のステップへつなげるプロセスの中で、科学がどのように活かされていくのかを示す典型的な事例となりうるであろう。

(研究情報支援研究センター 緒方裕光)